

# トゲニセマグソコガネ神戸市内で採集

(兵庫県甲虫相資料・289)

高橋 寿郎

トゲニセマグソコガネ *Caелиus denticollis* Lewis は Lewis 氏により “Miyanoshita, Kiga, Nikko” 産で1895年新種記載された種である。記載文の最後の所に「4頭あり老木及び朽ち木より得る」と書いてある(記載論文の最後に全形図もついている)。

八幡英夫氏は戦前図をつけて詳しく記載解説された(1942)(新に産地に武蔵御岳を示された)。  
野村 鎮氏も記載され東京産2例もあげておられる(1943)。

中根猛彦博士による記載並びに原色図説(1961, 1963), 益本仁雄博士の原色図説(1985)とあるがどれも分布は本州とのみになっている。石田正明・藤岡昌介氏は1988年の目録で分布を本州, 九州とされている。一番新しい中根猛彦博士の論文(1992)では分布はやはり本州とのみになっている。大体において産地の記録があまり見られないコガネムシだと考えられる。益本仁雄博士は低山地~山地, 朽ち木中にすみ, 春季に日あたりのよい樹間を飛翔するとのべられている(1985)。朽ち木中にすんでいることから記録がほとんど見られないコガネムシの1種のようなのである。

兵庫県からの記録は辻 啓介氏が多紀郡篠山町小金岳で採集された1♂♀(5-V-1962)が知られているだけであった(1968。辻氏は同時に本種の新産地山梨県大菩薩峠, 群馬県富岡を記録しておられる)。

今回筆者は神戸市北区藍那で池のそばに置いてあった大きな朽ち木(クヌギ?)の樹皮下より1♂を採集出来た。県下では2例目になるし全国的に見てもあまり記録のある種ではなさそうなので新産地として報告しておく(新潟県南魚沼郡湯沢町で原生林に隣接する河原を飛翔中の1ex. を採集したという記録がある。山尾, 1992)。

## 参考文献

(本文作製にあたり直接見た文献のみ)

石田正明・藤岡昌介(1988)

日本産コガネムシ主科目録(第一版 補訂版)。

LAMELLICORNIA 別冊 2:28.

G. Lewis (1895)

On the Lamellicorn Coleoptera of Japan, and Notices of others. Ann. Mag. Nat. Hist. Ser.

- (6):16: 382, fig. 5.
- 益本仁雄 (1985) 原色日本甲虫図鑑 (Ⅱ). pl. 67, f. 32, P.377.
- 中根猛彦 (1961) 日本のこがねむし (ⅤⅡ). 昆虫学評論 12(2): 61-63.
- 中根猛彦 (1963) 原色日本昆虫図鑑Ⅱ (甲虫編). pl. 61, f. 24, P.122.
- 中根猛彦 (1992) 日本産ニセマグソコガネ類の種について. LAMELLICORNIA (8): 1-6, Figs. 5, 10 & 16.
- 野村 鎮 (1943) AEGIALIINAE に就いて. むし Vol. 15 : 111-112.
- 野村 鎮 (1960) 日本産コガネムシ類目録. 桐朋学報 (10):39.
- 辻 啓介 (1968) 兵庫県における甲虫の分布 (第一報). 兵庫生物 5(5): 402.
- 山屋茂人 (1992) 新潟県のトゲマグソコガネ. 月刊むし(261): 35.
- 八幡英夫 (1942) Caelius 属に就いて (鞘翅目: 金龜子虫科). 昆虫界 10(98): 217-219.

## オオタコゾウムシ神戸市北区藍那にも産す

(兵庫県甲虫相資料. 290)

高 橋 寿 郎

1993年9月24日神戸市北区藍那での調査に蜂谷幸雄氏と一緒に出かけた。道端の樹木から下っている蔭性の植物を気にもかけず捕虫網で掬って1頭のオオタコゾウムシが入って来た。若干離れた所にクローバがあったので坐りこんで調べて見たら此处でも1頭のオオタコゾウムシがいるのがわかった。そこからかなり離れた地点で道端に生えている茅のような葉上で1頭を得た此处でも近くにクローバがあるので丹念に見たが他に見られなかった。この時期この種はクローバにいないのか、どうも食痕のようなものが葉にはあるのだが姿が見られない。夜食べて昼は他に移動しているのかよくわからない。兵庫区とは近い距離でありこの地にも不思議はないと思う。今年は兵庫区内では姿をほとんど認められない。大開小学校でも今年は多く見られなかったようで9月11日と10月2日に採集された2頭を頂いただけである。

(1993. X)